

# 皮膚外用剤について

## 皮膚外用剤とは？

皮膚外用剤とは、皮膚疾患の治療に使われる医薬品の半固形の製剤です。中身は、有効成分とワセリンなどの基剤（剤形）に分かれており、基剤の中に分散して有効成分が存在する形になっています。



## 基剤（剤形）とは？

基剤は、皮膚に付着し、有効成分を長く皮膚にとどめる働きをします。何種類かの基剤があり、皮膚の状態に応じて使い分けされます。

- ①**油脂性基剤**：皮膚刺激性が少なく、症状を悪化させることがないため、安全に広い範囲に適用されます。
- ②**水溶性基剤**：吸水性が高く、水疱、びらん、潰瘍等の分泌液が多い湿潤面に適しています。
- ③**乳剤性基剤（クリーム剤）**：吸収性が高く、紅斑や丘疹等の乾燥したところに使用されますが、油脂性基剤よりも添加物が多く、刺激性が高いため、びらんや潰瘍には適さないとされています。
- ④**ローション基剤**：粉末剤を液体に混合したものです。
- ⑤**リニメント剤**：泥状の外用剤。使いにくいので、現在はあまり使われていません。



## 皮膚の状態と剤形（基剤）選択の目安

皮膚の状態	油脂性基剤	水溶性基剤	乳剤性基剤 (クリーム剤)	ローション基剤	ゲル基剤	リニメント剤
紅斑	○		○	○	○	○
丘疹	○		○	○	○	○
水泡	○	○	×			○
膿疱	○	○	×			
びらん	○	○	×	×		
潰瘍	○	○	×	×		

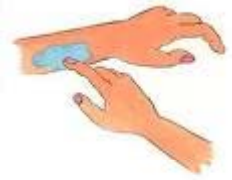
○：適、：不適

## 皮膚外用剤の塗り方は？

皮膚外用剤の代表的な塗り方に、①単純塗布法と、②重層療法があります。これらは疾患や皮膚外用剤の種類、塗る部位により使い分けられています。

### ①単純塗布法

単純塗布法は最も一般的な塗り方で、指の腹で皮膚外用剤を取り患部に薄く広げます。単純塗布法では、擦り込まず薄く塗ります。



### ②重層療法

重層療法は単純塗布法に比べ、主薬の吸収を高めることを目的とする塗り方で、単純塗布した上に皮膚外用剤を塗った布等を貼る方法と、2種類の皮膚外用剤を重ねて塗る方法の2つの方法があります。

## 塗る順序は？

### 1) 複数のステロイド剤を別の部位に塗る場合

一般に皮膚外用剤は身体場所により薬の吸収率が違うため、アトピー性皮膚炎にステロイド外用剤を用いる場合等には、塗る場所に応じて強度の違う複数のステロイド外用剤が処方されることがあります。そのような場合には、前に塗ったステロイド外用剤が指に残ることを考えて、弱いステロイド外用剤から塗るようにします。強いステロイド外用剤から使用してしまうと、指に残った強いステロイド外用剤が、顔等吸収の良い部位に付く恐れがあるためです。

### 2) 複数の皮膚外用剤を同じ部位に重ねて塗布する場合

塗る順序について処方医から指示がない場合は、先に塗る範囲の広い皮膚外用剤を塗り、その後、塗る範囲の狭い皮膚外用剤を塗るようにします。こうすることで、塗る範囲の狭い皮膚外用剤が広がってしまうのを防ぐことができます。